

J Rの業務外注化を止めるためのニュースです。感想や意見、現場の情報などをお寄せ下さい。(メール) dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

特急廃止・削減を許すな

千葉支社 3月ダイヤ改の労働条件を提案

J R千葉支社は、3月のダイヤ改で特急列車の全面切り捨てを発表しました。東京～君津・館山間で6往復運転される特急「さざなみ」は、君津～館山間で全面廃止、成田線の特急「あやめ」も全面廃止となります。

「首都圏70～80キロ圏に資源を集中する」というJ R東日本の方針によるものです。今回のダイヤ改によって館山市や南房総市、富津市には一本も特急が走らなくなります。

館山市、商工会議所、市観光協会の3者が12

月24日、特急の復活を求める要望書を千葉支社に提出するなど、沿線自治体から撤回を求める声が一斉にあがっています。

ローカル線廃止と安全無視は許さない

鉄道はJ Rという一民間企業のものではありません。公共交通としての責任があります。J Rは日頃、「お客様の立場」「地域に密着」などと宣伝していますが実際には営利優先・コスト削減でローカル線を切り捨てようとしているのです。

山 館

特急「さざなみ」の復活を

12.26 廃止発表受け 市など3者がJ Rに要望



来春のJ Rダイヤ改正で特急「さざなみ」の廃止が、館山駅発着の内房線が発表されたのを受け、館山駅発着の内房線が発表されたのを受け、

館山市、商工会議所、市観光協会の3者のトップが24日、新設された特別快速の増発、特急の復活を求める要望書を、J R千葉支社に提出した。

突然の廃止決定に、地元の関係団体が一致団結し、19日の発表に対し、素早い要望活動で復活を求める地元側の姿勢を強くアピールした。

ダイヤ改正(3月14日付)では、平日のさざなみは君津駅とまりとなり、君津以南は廃止。東京～館山間の特別快速を1往復新設するが、運行時間帯は東京からの乗降客向け。土休日の特急新設「さざなみ」は残る。

要望書では、ダイヤ改正で内房線の利便性が大きく低下すると指摘。高速バス利用が増えているが、鉄道は大量輸送、定時性の確保などに優れており、欠くことのできない交通手段と強調。

そのうえで、館山駅利用者が増え、通学に使うことができる時間帯の特急を復活させたい、これからも市、関係機関と連携を密にして、話し合いを持っていきたいなどと回答したという。

意見書は、さざなみの減便と平日の君津以南の運行廃止の見直しを求めることを、国会、県、県に要望する内容。今回の問題に対して、市議会としても迅速に動きをみせた。

要望書では、ダイヤ改正で内房線の利便性が大きく低下すると指摘。高速バス利用が増えているが、鉄道は大量輸送、定時性の確保などに優れており、欠くことのできない交通手段と強調。

そのうえで、館山駅利用者が増え、通学に使うことができる時間帯の特急を復活させたい、これからも市、関係機関と連携を密にして、話し合いを持っていきたいなどと回答したという。

意見書は、さざなみの減便と平日の君津以南の運行廃止の見直しを求めることを、国会、県、県に要望する内容。今回の問題に対して、市議会としても迅速に動きをみせた。

昨年、2040年までに896自治体が消滅する可能性を指摘する報告(増田元総務相が座長の日本創成会議人口減少問題検討分科会)が話題となりました。千葉県内では、銚子市が2017年、富津市が18年度に財政破綻が避けられないと言われています。

すでに、この間の特急削減で住民の交通手段は縮小し、観光を始め地域産業は衰退し、人口減が深刻な問題になっています。特急廃止は、地方自治体と住民の生活がかかった問題です。

ローカル線の廃止と業務縮小、合理化と安全無視に反対しよう。